

# 茨木市立天王中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- |            |              |
|------------|--------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった。 |
| ②書くこと      | 概ね良好な結果であった。 |
| ③読むこと      | 概ね良好な結果であった。 |
| ④言語事項      | 概ね良好な結果であった。 |

#### (問題形式)

- |      |              |
|------|--------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった。 |

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった。

#### (その他)

もっとも正答率の高い設問は「4 漢字の読み」や「1 質問の意図を捉える」などが挙げられ、もっとも正答率の低い設問は「3 文章での見方考え方を捉え、自分の考えをもつ」「2 文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」などが挙げられる。

また、もっとも無解答率の高い設問は「3 文章での見方考え方を捉え、自分の考えをもつ」であり、もっとも無解答率の低い設問は「1 話し合いの意図や方向性を捉える」「3 文脈中の語句の意味、登場人物の心情理解」「4 漢字の正しい読解」などが挙げられる。

#### 分析

観点領域で述べると話す・聞く分野が全国平均に対し、やや下回る結果となっている。聞き取りやスピーチ（的確に自分の伝えたいを伝える）学習に力を入れていきたい。

また、記述式の問題形式においても全国平均に対し、やや下回っている。これについては、授業内でまとめの記述を各单元ごとに積極的に取り入れるなどして、力をつけていきたい。

## ○●数学●○

### (領域ごと)

- |        |              |
|--------|--------------|
| ①数と式   | 良好な結果であった。   |
| ②図形    | 良好な結果であった。   |
| ③関数    | 概ね良好な結果であった。 |
| ④資料の活用 | 概ね良好な結果であった。 |

### (問題形式)

- |      |              |
|------|--------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ③記述式 | 良好な結果であった。   |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった。

### (その他)

もっとも正答率の高い設問は「5 データから中央値を求める」「6 考察の対象を明確に理解する」「7 表やグラフから情報を適切に読み取る」などが挙げられ、もっとも正答率の低い設問は、「8 データの傾向を捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明することができる」が挙げられる。また、もっとも無解答率の高い設問は「6 数学的な結果を事象に即して解釈し、特徴を数学的に説明することができる」「8 データの傾向を捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明することができる」であり、もっとも無解答率の低い設問は「3 おうぎ形の中心角と弧の長さ・面積との関係の理解」「5 データから中央値を求める」「8 相対度数の必要性和意味の理解」などが挙げられる。

### 分析

全国の平均正答率に対し、本校での平均正答率は大きく上回る結果となった。単元ごとの正答率で比較すると、特に「数と式」及び「図形」の単元が、全国平均と比較して高い値になっている。

一方で、「資料の活用」の単元では、全国平均に対して、やや下回る結果となった。

このことから、グラフや表などのデータから読み取る問題を多く取り入れ、説明をする力を身につけさせたい。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

前回の学力調査では、国・数ともに平均正答率は全国平均を下回っていたが、今年度はどちらも全国平均を上回っていた。無解答率も過去5年間で最も低く、出題された問いに対して粘り強く考える姿勢が窺える。

各教科のグラフから、国語では「話す・聞く」、数学では「資料の活用」の領域が特に全国比を下回っている。複数の情報を整理し、場面に応じて使い分ける力を伸ばしていく必要がある。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度は、高位層が大幅に増えた。授業での取り組みや家庭学習での積み重ねができてきているようである。また、低位層は国語で微増、数学で大幅に減少した。数学はTTや少人数といった丁寧な指導体制が成果となっていると思われる。全体としては、初めて見る内容の読み取りや分析に関して、やや課題の残る結果となった。学び合いや、教科横断的な課題に取り組ませるといった活動を通して、学習に対してより意欲的に向き合えるような体制が必要である。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### ○「チャイムと同時に授業を始める」を徹底する。

教師がチャイムが鳴ると同時に授業を開始する習慣をつける。

#### 成果

チャイム着席や挨拶、授業の進行やふり返りなど時間にメリハリがついた。

→結果として、生徒の活動にも余裕が出てきている。

#### ○朝読に対する指導

担任も含め全員で読む習慣をつける。

#### 成果

- ・朝から落ち着いた雰囲気ですべての授業が行えるようになった。
- ・朝読以外の時間でも本を読む習慣が付き、文を読む力や想像力の向上が窺える。
- ・朝読の呼びかけを生徒が行うことで、生徒がクラスを運営する機会作りになっている。

#### ○学習会の実施

定期考査の際に実施。

#### 成果

少人数での取り組みになっているため質問がしやすく、学習意欲の向上につながっている。

#### ○教師の参観週間

学期に一週間程度、教師同士の授業参観期間を設ける。(教科の制限なし)

#### 成果

- ・意見交換することで、授業への新しいアイデアや見通しを持つきっかけになった。
  - ・学年をまたいで参観することで、生徒の様子や情報を共有でき、手立てを考えやすい。
- 生徒にとって、より意欲的に参加できる授業展開により、学力の定着につながる。